



1 テーマとねらい

「子どもたちに関わるボランティアの意義と役割～体験活動の推進に向けて」

◎子どもたちの体験活動の現場では、ボランティアの若者たちが大きな役割を果たしている。子どもと若者の双方の視点から、そうした活動の意義や役割について考える。

2 分科会の概要

第 3 分科会では、子どもの体験活動に取り組む 2 つの団体から話題提供をいただいた。NPO 法人コドモ・ワカモノまち ing は、大学生を中心とする若者ボランティアによる子どもたちの遊び活動支援を展開している。子どもたちの 4 間の欠如（時間、空間、仲間、すき間）が叫ばれる中で、地域の中に遊びを出前する「移動式子ども基地」の活動が紹介された。

一方、41 年の歴史を持つ杉の子会（東京都西東京市）からは、自然活動体験における安全管理や危機管理のノウハウや、組織運営やプログラム展開の手法などについての紹介や、小中学生時代の参加者（メンバー）が高校生になって運営ボランティア（リーダー）に育っている好ましい事例も報告いただいた。

子どもたちから様々な体験が失われつつある中で、体験活動が子どもたちの育ちに貢献すると同時に、子どもたちに関わるボランティアにとっても、活動から数多くの学びや発見があり、自身の成長機会にもなっていることが示された。

コーディネーターの青山氏から、子どもの体験活動においては、冒険的要素を大事にしつつ、リスクマネジメントを行わなければならないので、その兼ね合いが非常に難しいとの指摘もいただいた。

フロアには、愛媛県の高校ボランティア部の学生の姿もあり、「部活動は期限のある活動。今日の話聞いて、私達も卒業後も繋がって地域で活動していけるといいな」との感想が最後に述べられた。

（桐蔭横浜大学スポーツ健康政策学部 木下直子）

